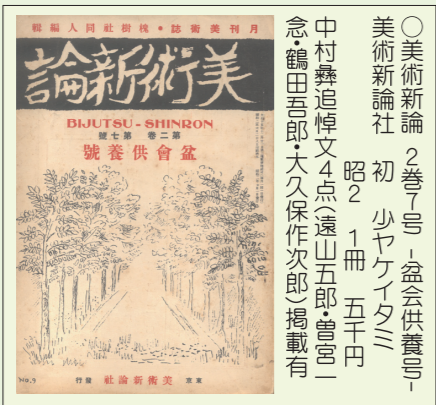


中村彝のアトリエ



今年の5月頃から時折目白店の店番をするようになりました。月に数回のこともあれば、10日ほど入る月もあります。ずっと地下街で働いてきたので路面店で仕事をするには以前から少し憧れがありました。陽射しや風、天気の違いや移り変わりなどをじかに感じるのは新鮮です。とはいえメグラのような地下街暮らしに慣れた身には、今年の猛暑と大雨は厳しいものがありました…。

紅葉も鮮やかな季節になって、これからは気持ちのいい散歩ができるだろうと期待しています。まだ目白駅と店との往復ばかりで横道にそれる余裕はないのですが、周辺には素敵な散策スポットもあるのでいずれ歩いてみたいと思っています。

目白店から5分くらいのところに大正時代に活躍した洋画家中村彝(なかむら・つね)のアトリエ記念館があります。新宿区が整備をして今年の春から見学できるようになりました。赤い屋根の可愛い建物です。彼が住み始めた頃の付近の様子はこんな風に伝記に記されています。「表通りは桜並木の下が崖になっていて、小鳥がさかんに囀っていた。向かい側の崖の上はポツポツ家が建ちかけていたので、彝さんは庭から向かい側の家などを入れて写生もしている」(『中村彝の周辺』鈴木良三著 中央公論美術出版刊)。彝自身も友人に宛てた手紙に「周囲が青々と起伏した畑で、所々にコンモリた檜の森や、生垣や、西洋館や、桜、櫟等の並木が見える、丸でプロヴァンスの景色でも見るようです」とのどかな光景をしたためています。落合村と呼ばれていた時代です。

住宅地として切り開かれはじめた矢先で、瀟洒な屋敷がちらほらと見える反面、雑木林もたくさん残っていました。彼のアトリエも大きくはありませんが当時としてはハイカラな雰囲気があったそうです。桜並木と書かれているアトリエ前の通りをいま歩いてみると、崖を思わせる高低差があるのはわかりますが、集合住宅が建っていて向かい側を臨むことはできません。でも歩道は整備されていて気持ちよく散歩できます。しばらくくとアダチ版画研究所があり、先は佐伯祐三のアトリエ記念館に続いているそうです。いまでは高級住宅街という雰囲気のある土地ですが、古くからあるのであろう家の庭には大きな樹木も見えて、昔の様子が見えます。

アトリエの広さは8畳くらいでしょうか。北側に大きな採光窓があり柔らかな光が差し込むようにつられています。隣にある居間は庭に面しています。あとは住み込みで彝の世話をしていた岡野キイの居室や台所があるだけのこぢんまりとした建物です。彼がこのアトリエで暮らしたのは大正5年から亡くなった大正13年までの8年ほど。長く住んでいたとはいえませんが、他界したのが37歳という若さです。17歳で結核を患い、長い闘病生活をおくっていました。ここでの生活は彼の画業のなかで大きな割合を占めています。それに彼の生涯を知ってからアトリエを見学すると、小さ

な空間が彼にとって非常に大切な存在だったこと、ここで名作が生まれたということがオーバーラップして、実際の広さよりずっと広く感じられます。

住みはじめの数年は海辺に療養に出かける体力もありましたが、徐々に弱り外出も難しくなっていました。それでもアトリエからの眺めを写生したり、友人に静物画のモチーフを頼んだりして作品を制作しています。熱で倒れたときは居間に据えつけられたベッドに横になっているしかありませんが、そんな時でもベッド脇に貼ったレンブラントやルノアールなどの切り抜きを眺めては研究し、次の作品の構想を考えていたそうです。

彼がこのアトリエで描いた名作「エロシェンコ氏の像」は東京国立近代美術館に所蔵されており、先日まで所蔵品展に出品されていたので観ることができました。近代の肖像画のなかで傑作に数えられる作品です。実際絵の前に立つと、モデルのたたずまいがはっきりとこちらに伝わってきます。私はこの絵を見てはじめて、肖像画というのは似ている似ていないということは問題でなくモデルの内面、人となりが描けているかどうか成否なんだということを実感しました。中村彝はこの絵を8日間描き続けたあと倒れ、当面の絶対安静を言い渡されたそうなのですが、作品にはそうした疲れや苦心などはみじんも感じられず、ひたすら美しく温かい筆づかいが見えるだけです。

アトリエでは実物の作品は見られませんが、精細な複製印刷画が数点かけられていて、制作当時の雰囲気も伝えています。北の窓からそぞろ柔らかな光のなかでその絵を見ていたら、アトリエも名画の誕生に欠かせない装置の一つだったのかもと思いました。



中村彝は旧水戸藩士の家に、5人兄弟の末っ子として生まれました。両親を早くに亡くし、軍人だった長兄を頼って東京へ出てきたのが12歳。兄と同じように軍人を目指していましたが肺結核を患い学校を退学。転地療養先で写生をしたり、画家を目指す友人と交流したりするなかから画家を志すようになりました。画家として不遇だったわけではありません。裕福ではありませんでしたが、展示会では幾度も入賞し、天才とも評されました。絵を買ってくれたり生活費を助けたりしてくれる実業家も何人かいました。惜しまれるのは才能を遺憾なく発揮できるだけの体力、健康に恵まれなかったこと。

けれども病があるからといって鬱々と暮らすような人ではありませんでした。どちらかといえば楽観的だったようです。友人との交流は密で、仲間に支えられながら生きていたといえるでしょう。そして彼も仲間を支えました。自ら動いて友達を助けることはできなくても、支援者に仲間を紹介したり、少ない蓄えの中から援助したり、励ましの言

葉をおくったりと。特に深い交流があった美術仲間には曾宮一念、中原悌二郎、鶴田吾郎らがいます。画友と交流する場をつくろうと、アトリエの庭で美術仲間20人ほど集めて園遊会を開いたこともありました。没後に遺稿を集めて出版された『芸術の無限感』(岩波書店刊)には友人や支援者などに送った書簡が載っていますが、誰に対しても愛情と感謝の念にあふれた言葉が綴られて、やりとりの間にある温もりがうかがえます。

そして友人たちから愛されたもう一つの理由に、絵画への人並みならぬ執念があるのではないかと思います。亡くなる前年の大正12年に関東大震災がありました。書簡にその後の心境が書き記されていました。「たとい体の状態がどのようであろうとも、もはやベンペンとして病を養ってなどはいられないような気がしてなりません。いかに微かなりとも残存せる全生命の死力を尽くして、自分のもてる一切をこの際はきだしてしまわなくてははいられなくなりました」と。命を削るようして絵画に向き合う姿勢は、美術仲間から見ても痛ましく、かつ神々しいものがあったと思います。

大正時代に建てられたアトリエが現在まで残っていたことが、彼が愛され尊敬されていたことの一番の証といえるでしょう。没後まもなく友人たちが遺品の整理、遺稿集の出版準備などに取りかかりました。アトリエの保存も友人たち意思によるものです。中村彝が世間から忘れ去られないように、彼を偲ぶよすがをこの世に残しておきたいという思いで中村画室倶楽部という会がつくられました。やがて人手に渡りもしましたが、現在めでたくアトリエの見学ができるようになって中村彝の画業に触れる機会をもてたのも、中村彝と仲間たちとの友愛のおかげに他ならないと思います。もし目白におこしになる機会がありましたら、アトリエも含めて散策してみてもいかがでしょうか。

R.S.Books店長 渡辺明子



新宿サブナード
2丁目広場
10:00~21:00

(初日は11:00オープン)
(最終日は20:00クローズ)

小説、コミック、アートなど、新しい本からレアな本までご用意いたします。雑誌、パンフレットなども出品店舗が入れ替わりながらご提供いたします。

～出店スケジュール～

11月1日(金)	久保書店	坪井書店	古書夢の絵本堂
11月2日(土)	岡田書店	球陽書店	金井書店
11月3日(日)	藤井書店	れんが堂書店	船越書房
11月4日(月)		がらんどう	
11月5日(火)		新日本書籍	
11月6日(水)		小野田書店	
11月7日(木)			
11月8日(金)			
11月9日(土)			
11月10日(日)			
11月11日(月)			
11月12日(火)			
11月13日(水)			
11月14日(木)			

全品一冊につき
300円均一

古本浪漫洲

読み終えた本をお売りください。

新刊から和本まで1冊から買取いたします。
蔵書整理・出張買取などお気軽にスタッフまでご相談ください。

買取歓迎ジャンル

- 文庫(国内作家・推理小説)●美術展カタログ
 - 芸術関連・読み物●演芸・落語・講談関連
 - 思想・哲学●戦前の雑誌●歴史関連・読み物
 - 江戸東京関連全般●趣味の本
- ★本という形に限らず、印刷物・版画などさまざまなものも取り扱います★



学生証の提示で…
平日 **10%OFF!**
土日祝 **15%OFF!**
他の特典との併用は不可

ここでも学割実施中!!
R.S.Books 店内商品限定(一部除外品有)

店頭や古書の情報をお気軽にお受け取りください。
お得な情報もお届けします。

金井書店グループ通信
毎週メルマガ配信中!

詳細とご購入はこちらから <http://www.kanaishoten.jp/c/>

「えぼっく」はR.S. Booksと金井書店各店舗にて無料で配布しております。
遠方にお住まいの方で購読をご希望の方には5号分単位にて承りますので送料として400円分切手を下記までお送りください。
なお、「えぼっく」は不定期刊行ですので発送も発刊時となりますことをご了承ください。

えぼっく
郵送のご案内

申込先 〒161-0032 東京都新宿区中落合4-21-16
金井書店営業本部「えぼっく」係